

お願いすることが決まった。

春季大会は、「東京」で、東京管区気象台担当

秋季大会は、「関西」で、関西支部担当

(3) その他

ア. 国際学術交流委員会のこれまでの活動、計画等について、「天気」に掲載し、会員に周知を図ることとなった。

イ. 「第21回自然災害科学総合シンポジウムの開催（昭和59年10月8～9日）」の後援と募集案内の依頼について、「天気」への掲載と協賛が承認された。

ウ. 「スーパーコンピューター いかに使うか現状と将来」の講習会（昭和59年7月25～27日）への協賛依頼について、協賛が承認され、講習会の案内は大学等主なところへ送付することとなった。

エ. 「風に関するシンポジウム」の共催と講演募集の

「天気」への掲載依頼について、いずれも承認された。

オ. 「昭和59年度放射線取扱主任者試験施行について」の機関誌への掲載依頼について、関係が薄いので、断わることとした。

カ. 「国際MAPシンポジウム」の共催方の申し入れについて、同組織委員松野理事の説明があり、共催することが承認された。

キ. 国際気象海洋株式会社からの「天気」への求人広告の掲載方の照合について、通常の広告扱いということでも了承された。

承認事項

個人会員 家藤敦章ほか24名、及び団体会員「札幌市青少年科学館」他1団体の新規加入が、それぞれ承認された。



田村専之助 著

「東洋気象学史論叢全六巻」

会員・田村専之助博士（三島科学史研究所）が、このたび東洋気象学史論叢全六巻を完成された。田村博士は明治43年群馬県沼田に生まれ、勤労学生としてセルロイド工場の夜間工、土木作業員、新聞配達などをしながら、苦学力行ののち昭和10年早稲田大学文学部史学科東洋史専攻科を卒業、当時の中央気象台長・岡田武松博士の勧めと激励により気象学史専門の道を歩むことになった。初めに取り組んだのは朝鮮気象学史であるが、夜学の教師などで生計をたてつつ、日本学術振興会の援助を受けて、毎日6時間、5年間の日数をもって、李朝実録1707巻を読破・抄録した。そしてその後10余年の研鑽を経てとりまとめた李朝鮮気象学史研究により、昭和37年、京都大学より文学博士の学位を受けた。

田村博士は、さらに東洋文庫・内閣文庫・静嘉堂文庫等の典籍を使用して、中国気象学史上・中・下巻を完成、続いて日本気象学史上・下巻へと筆を進めた。これらはいずれも膨大な資料を熟読・駆使した、長い年月のうまざる努力を必要とする労作であり、これを読む者は、まず、著者の学問的情熱に心を打たれるとともに、そこに記された豊富な資料と著書の哲学的考察から、大

いに得る所があるに違いない。

いま、この欄の貴重な紙幅を借りて、広く気象学会員に田村博士の労作を紹介するのは、気象学における気象学史は比較的せまい分野であること、著者は在野の高齢の学究であること、労作は著者自身が主宰する研究所の出版で、その配布・流通が、結果的には、かなり限定されていることなどのため、その存在と価値を知る人が少ないためである。現在気象学が、関係諸学界はもとより、社会万般と深いつながりをもって発展しつつあるとき、地道な研究により集大成されたこの一連の気象学史書は、今後とも広く各方面の要望に応えるものと信ずる。

参考のため以下に全巻の一覧を記す。

東洋気象学史論叢全六巻

1. 李朝鮮気象学史研究 399ページ（8,000円）
2. 中国気象学史研究 上巻 811ページ（10,000円）  
中巻 553ページ（8,000円）  
下巻 768ページ（12,000円）
3. 日本気象学史研究 上巻 689ページ（9,000円）  
下巻 956ページ（15,000円）

発行所 三島市光ヶ丘 3-26-2

三島科学史研究所

発売所 東京都千代田区神田神保町 1-7

一誠堂書店

（和達清夫・倉嶋 厚）